

平成20年3月27日
株式会社 新生銀行
(コード番号: 8303)

2008年ジャパン・フューチャー・リーダーシップ・プログラムに関する ウォール・ストリート・ジャーナルとの提携について

当行は、ウォール・ストリート・ジャーナル・アジア紙と共同で2008年ジャパン・フューチャー・リーダーシップ・プログラムを実施することといたしました。文部科学省の後援を得たこの年間プログラムは、日本の有名大学に通う学生2,000名を対象に、アジアのビジネス紙ウォール・ストリート・ジャーナル・アジアのものの見方と、当行のビジネスの実務に立ったものの見方を結集した学習の機会を提供いたします。

当行と、ウォール・ストリート・ジャーナルを傘下におくダウ・ジョーンズ・ジャパン株式会社とは、東京大学、早稲田大学、慶応義塾大学、青山学院大学、一橋大学、国際基督教大学、上智大学、明治大学の各大学から同プログラムに参加する学生に対し、平日毎日ウォール・ストリート・ジャーナル・アジア紙を提供いたします。また、参加学生には英和辞典を贈呈し、Dowbe.comを通じてビジネス英語のeラーニングも提供いたします。さらに、当行より、ビジネス関連の講義やウォール・ストリート・ジャーナル・アジアで掲載されたビジネス記事に関連したコンテストなどを開催するとともに、インターンシップや採用に関する情報も提供する予定です。

当行のチーフ・ラーニング・オフィサー(CLO)、トム・ペダーセンは、「これは当行が日本の若者との接点を広げ、トップバンカーの持つノウハウを提供するまたとない機会です。また、当行の教育に対する取り組み姿勢を知っていただく最適な方法でもあります。」と、と述べています。

当行はこれまで長期にわたって、教育と企業の社会的責任(CSR)に対する取り組みを行ってきており、行内においても社員教育に独自のアプローチを行っております。社長のティエリー・ポルテは、教育への取り組みを重視しており、行内に学習のカルチャーを浸透させ、行員に対して継続的に提供される様々な教育プログラムへの参加を奨励しています。ポルテ社長はペダーセンCLOと共に、行内に知識とベスト・プラクティスを行き渡らせ、文化的、社会的、教育的取り組みを当行の「新生ビジョン&バリュー」の中心に位置付けました。当行は学ぶことを重視する企業であり、金融界における将来のリーダーを育成することが、当行がよって立つ地域社会に対する貢献の重要な部分を占めると考えています。

ウォール・ストリート・ジャーナル・アジアのリージョナル・ジェネラル・マネージャー(フューチャー・リーダーシップ・プログラム担当)であるブラシーシュ・チャクラボートは以下の通り述べています。「パートナーである新生銀行の支援に感謝しています。同行の貢献により、ウォール・ストリート・ジャーナルは、学生への教育プログラムにビジネス実務の要素を加えることが可能となり、またビジネス英語のスキルアップを通じて、日本の学生が実社会でのさまざまなチャレンジに向けて準備できる良い機会を提供することができると思います。」

ウォール・ストリート・ジャーナルがアジアでの教育支援事業を開始したのは1994年であり、現在、アジア域内各国でこのフューチャー・リーダーシップ・プログラムを色々な形で展開しています。参加学生はこのプログラムを通じて、グローバル競争、経済、ビジネスのコンセプト、IT、マーケティング、金融市場の仕組みについて、ビジネスの現実に根ざした理解を日々深めることができます。また毎日のウォール・ストリート・ジャーナル・アジアを通じて、学生たちは、アジアや世界の企業の動きを現在進行形のケース・スタディ、すなわち「生きたテキストブック」として学ぶことができます。

以上